



説教
現代の神学者紹介・第十回
旧約聖書に聴く
教会、この地とともに⑥
SDGsについて考える⑰
(目標8)
次世代へのメッセージ⑱
こいのにあ

教会ニュース

12 2023 | No.852

- 1 インマヌエルのしるし……駒井利則
- 2 ユルゲン・モルトマン／2……小林宏和
- 3 第八戒……三好 明
- 4 神様のみ声に耳を傾けて……中村浩子
- 5 パンだけでなく御言葉による豊かさを
……中家契介
- 6 「教勢」なる用語の消え去る日……宇田達夫
- 7 みんなの絆がつながった「夏の集い」
……三輪恵愛
- 7 九州中会長老・執事・委員研修会……李 炳斗
- 8 クリスマスの喜びをあらわすツリー
……久野香代子



インマヌエルのしるし

イザヤ書 7章10-17節

駒井利則

それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。

紀元前8世紀の預言者イザヤの時代、シリア、アッシリアなどの大国がイスラエルの周辺で覇権争いを繰り広げ、南王国ユダでは、王も民も激しく動揺していた。何が国の利益になるのか、何が国を守るのかを思案し、迫ってくる危機にあわてふためいていた。

その時、預言者イザヤは言う。「落ち着け。静かにせよ。恐れるな」(7章4節参照)と。「あなたがたは信じなければ、堅く立つことはできない」(9節参照)と。神の契約の民イスラエルは、国の危機や敵対勢力に対処するために経済力や軍馬や武器、あるいは人間の知恵とか政策に頼るべきではなく、主なる神にこそ頼るべきであり、主なる神のみ言葉にこそ聞かなければならないのだとイザヤは語る。

そしてさらに、主なる神が差し出してくださる「しるし」にこそ目を向けるべきである。その「しるし」とは、「インマヌエル＝神われらと共にいます」という名で呼ばれる男の子である(14節参照)。

イザヤの時代に、この男の子が実際にだれを預言していたのかが議論されるが、それをここで特定する必要はないであろう。神がイスラエルのあらゆる危機の時にも決して彼らを見捨てず、試練と苦難の中にある彼らと共にいてくださり、彼らに救いと命のみ言葉を語ってくださるという確かな約束が与えられているのであるから、イスラエルはこの預言者のみ言葉を信じるべきであり、また

信じることが許されているのである。

マタイによる福音書1章は、このイザヤの預言が主イエスの誕生によって成就したと伝えている(18-23節参照)。天におられる聖なる神が、地に住むわたしたち罪びとたちと永遠に共にいてくださることを決意された「しるし」として、主イエスは誕生された。わたしたちはクリスマスの「しるし」として、この偉大なる神の決意を見るのである。

この神の決意が偉大であることは、神がご自身の独り子さえも惜しまずにわたしたち罪びとたちの手に引き渡され、十字架の死に引き渡されたという、偉大なる神の愛によって証明された(ローマ8章32節参照)。もはや、どのような力も、どのような被造物も、「わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」(39節)と使徒パウロは語る。

今日、世界は激しく揺れ動いている。日本も例外ではない。わたしたちの教会もそうでないとは言えない。人々は平和を願って知恵を出し合う。教会もさまざまな改革や変革を迫られる。そのような現実の中で、わたしたちはイザヤの預言を聞くように招かれている。「落ち着け。静かにせよ。恐れるな。神のみ言葉を聞き、信じよ」と。「インマヌエル＝神われらと共にいます」という「しるし」から目を離すなど。

わたしたちにもこの確かな約束が与えられている。

(秋田教会牧師)